

IT活用型経営革新モデル

中田商事が承認を受ける

【三重】「提案力・技術費やコンサルタント術力でニッチ(すき間)戦略のNo.1」をめざす(有)中田商事(上野市)。このほど、IT活用型経営革新モデル事業に承認された。人数は全国で五十六件、十四年度は四十件という「狭き門」だ。



中田純一社長は昨年来から経営革新に努め、「ニッチ戦略のリスク回避のためにIT

を活用する。リスク

を減らすことで利益を確保する」ことを模索してきた。デジタコで

データ管理し、日報や請求書作成など基幹業務と接続する。ことで、

社員の負担を軽減。さらに、データを教育の資料にして、ドライ

バーの端末から検索できるようにした。「高速代や燃料代など運送

原価が前年同月と比べいう。例えば、相場六万円とされる東京—大阪間、四ツ・エアサス。ユニック車、機械モノ運搬で、相場の往復運賃とも言える十万円以上を定めた上で、事務所は「常に数件の見積り協力手当、デジタコ手当、整備手当など手当を細分化。不備があった場合は「減点」として、全ト協を通じて、社長は「厳しいけれど、それが普通にならなければいけない会社になる」と強調する。その甲斐あってか、最近では月二件のペースで新規荷主を獲得している。

「常に見積りを作っている」毎日だ。IT活用型経営革新の承認を受けたこと、全ト協を通じて、社長は「厳しいけれど、それが普通にならなければいけない会社になる」と強調する。その甲斐あってか、最近では月二件のペースで新規荷主を獲得している。

運賃についても「自分でも高いと思うような見積もりが通る」と

アドレスは <http://www.nakata-shoji.co.jp/>

(三輪 功)